

JDLANET

「日民協通信」

本部事務局発行

御苑発第2号(2004年9月20日発行) 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-14-4 AMビル2・3F

電話 03-5367-5430 FAX 03-5367-5431 Eメールアドレス info@jdla.jp ホームページ <http://www.jdla.jp/>

揺れる 道ばたのコスモス

空高く 舞う 鳥

たしかな 秋の訪れ・・・

「JDLANET」御苑発第2号をお届けします

もくじ

夏季合宿報告・・・・・・・・・・ 2

夏季カンパの報告と御礼/特別カンパの御礼・・・・・・・・・・ 3

告知板・・・・・・・・・・ 4

「法民」2005年1月号・原稿募集要項・・・・・・・・・・ 4

日民協04年度夏季合宿は超豪華版

大型で強い台風が九州地方に近づき、日本全土を総なめにしてしようとしていた8月29日と30日、日民協04年度夏季合宿が、KKRホテル熱海で行われました。

事前に予約してあったとはいえ、台風だから延期したらとかの話が一切出ないところが日民協執行部らしいところ。参加者は10人。

KKR というのは、ご存知のとおり国家公務員の共済施設ですが、この「KKR ホテル熱海」は各地の同施設と違って、文字通りの高級ホテル。参加者の全司法井上さんから由緒来歴(?)を聞いて、みんなはなるほど、さようですかと納得顔。

会議室はシャンデリアの下がる重厚な次の間付の部屋。宿泊は付設されている3棟のコテージ(別荘風の独立家屋)という、“らしからぬ”豪華版でありました。

事務局の尽力によって、自由民主党、民主党、公明党の憲法「改正」に向けての論点整理・中間報告や、日弁連の「司法改



「合宿」開会宣言をする鳥生理事長

革の取り組みと到達点」、司法改革市民会議や司法改革市民ネットワークの資料など、たくさんの貴重な資料が用意されていました。

第一日目29日は、午後1時から「憲法改悪阻止運動と法律家の役割」について論議。はじめに、市民運動家の高田健さんから「市民運動から見る憲法運動論」と題して特別報告を受けました。

高田さんは、平和・市民運動の中で私はいつも「一番若い人」だったと笑わせながら、「03年初頭あたりから、状況は明らかに変わってきた、平和運動が戦争経験者の運動として「高齢化」していたが、多くの若者がブッシュのイラク戦争に反対しておずおずと参加し始めた、この若者たちのエネルギー、その感性やスタイルを大切にしたい」と長年の活動の経験の中から具体的事例をあげながら、話をされました。

「イラク戦争が始まる前から国際的な反戦運動が起こったが、特にリーダーや組織があったわけではなく、インターネットで呼びかけ自発的に参加するという形が主流、人質解放運動でも、市民の国際的つながりが、イラクの武装集団を動かし、成果を挙げた」と強調。

自民・民主・公明の憲法改正作業については、現憲法の根本理念を変え、封建時代のイデオロギーを持ち込むものだ、憲法に国民の権利条項が多いのは当たり前で、国民の義務規定を盛り込むべきというのは本末転倒だ、グローバリズムと戦争をする「普通の国」への道を拒否する新しい市民運動が起こっており、「9条の会」もその一つである、壮大な統一戦線が今こそ必要であり、法律家の役割も大きい、と激励されました。

憲法運動の進め方については、別に榎本弁護士から「9条の支持をめぐる」というペーパーが出されていて、論議がはずみ、憲法9条を守りきるという基本戦略を明確にし、可能な限り広範な人々を結集する、各県・地域・職場・機能別などさまざまな自主組織でネットワークをつくる、運動の表には幅広い影響力のある人にたってもらう、参加者は9条改

悪反対なら誰でもよい、思想・信条・国籍など問わない、ただし運動攪乱分子はご遠慮願う、法律家の組織作りをどうすすめるか、などなど独創的で活発な意見が多数出されました。



身振り手振りを交えて・高田健氏

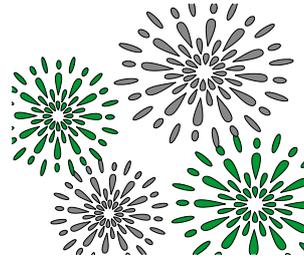
午後4時すぎから、司法問題に話題を移し、第37回司法制度研究会を11月7日(11月6日の定時総会翌日)に開く、主テーマを「検証・『司法改革』これで司法はよくなるのか」(仮称)とする、日民協などで組織され大きな役割を果たした「司法改革市民会議」メンバーから刑事・民事・司法官僚制・司法支援センター等について問題提起をしていただき、パネルディスカッション方式でやったら、などの意見が出され、司法制度委員会で具体化することになりました。

午後6時から夕食。

にぎやかな夕食後はそれぞれのコテージで、東京からの持ち込み作業を片付けたり、2次会で討議を続行したり。

当日は日曜日で有名な熱海の花火大会が催されていました。雨模様のため部屋から見ることにしましたが、かつてない迫力のある花火を見ることになりました。

ドン、ドンとコテージの窓をたたく人がいる。林さんだと思って窓を開けたが、だれもいない。そこへまたドン、ドンである。声はすれども姿は見え、あ、花火だと気づいた次第。



私たちは窓際に寄って音のするほうに顔を向けた。コテージからは花火会場の「お宮の松」海岸は右斜め下になる。綺麗な花火が丸ごと輝くこともあるし、音だけのときもあるし、シュルシュルと花火が上るときだけのときもあるし、

輪が半分だけ見え、雲の中に消えるものもあった。強烈な火薬の匂いが煙と共にコテージを襲った。

黒い雲が流れ、時に横なぐりの雨が吹き付ける。それはすさまじいというか、ものすごいと表現したほうがよさそうな印象的な花火で、高田健さんを囲み、ウイスキーをなめながら、政治・憲法・司法を語り合ったこの時間は、おそらく生涯忘れ得ない思い出のページになったと思われま

す。二日目は、日民協の組織拡大と「法と民主主義」の編集強化策などについて意見交換。小生は昨夜の深酒が利いて、討議に集中できませんでした。そこで中略。

正午過ぎ、すべての日程を終わり、タクシーで熱海駅へ。仲見世で昼食の予定でしたが、午後から東京で行動や法廷が入っている人もいて、散会となり、実り豊かな合宿を終えたのでありました。



(文責 副理事長 有村 一己)

ありがとうございました。

事務所移転を果たし、新しい事務所での仕事も軌道に乗ってまいりました。以前より静かな雰囲気のお会議室、議論がすすみます。いろいろな方にご利用いただきはじめています。

今回も、多くの方々からご厚志がよせられました。本当に感謝申し上げます。心からのお礼の気持ちをこめて、下記にお名前を記させていただきます。ありがとうございました。

(50音順・敬称略・9月17日現在)

相磯まつ江	秋山 正行	秋山 賢三	安倍 晴彦
天宮 利幸	新垣 勉	新垣 進	安藤 裕規
飯沼 洋子	池田 恒男	石井 彰	石川 元也
石口 俊一	石田 明義	石松 竹雄	板井 優
伊藤 清	猪狩 久一	猪股 秀章	井之脇寿一
岩嶋 修治	岩橋 宣隆	右崎 正博	内田 省司
内山 新吾	馬島 岳彦	浦野 広明	榎本 信行
大国 和江	大久保賢一	大山美智子	小笠原彩子
岡田 和義	岡田 啓資	岡村 正淳	小川 政亮
奥津 年弘	小田中聰樹	小野寺信一	小野寺利孝
尾林 芳匡	尾山 宏	甲斐道太郎	門井 節夫
金子 修	椛島 敏雅	鎌形 寛之	川崎 浩二
川崎英明	河野善一郎	川又 昭	木佐 茂男
北野 弘久	吉川 経夫	木梨 吉茂	木村 壮
工藤 勇治	久保田昭夫	熊谷 悟郎	小池 幸造
国府 泰道	小関 傳六	湖東 京至	後藤 好成
小林 政秀	小林 武二	小林 赫子	坂 勇一郎
酒井 和	坂井 興一	榊原 匠司	阪口 徳雄
佐々木良博	佐藤 篤士	佐藤 昭夫	佐藤 秀夫
佐藤むつみ	佐藤 哲之	佐藤由紀子	四位 直毅
志田なや子	柴田 茲行	島田 広	清水 善朗
清水 洋二	下東 信三	菅沼 文雄	菅野 弘義
杉山 彬	杉山 茂雅	鈴木 章	鈴木 秀幸
関 幸磨	関本 秀治	千田 功平	高崎 裕子
高崎 暢	高藤 敏秋	高橋 清一	竹澤 哲夫
武田 哲幸	田中 重仁	田畑 元久	環 直弥
塚原 英治	鶴見 恒夫	土井大三郎	徳満 春彦
戸谷 茂樹	富永由紀子	富森 啓児	鳥生 忠佑
仲 哲生	永井 栄俊	長尾 詩子	中嶋 正起
仲田 晋	中村 晃	中村 和雄	中本源太郎
仲山 忠克	西村 欣郎	新国 信	二瓶 龍美
沼田 敏明	野上 恭道	橋本 紀徳	畑山 穰
馬場 秀幸	林 伸豪	肘井 博行	廣谷 陸男
深川 加代	福井 茂夫	藤村 三郎	藤原 精吾
洲上 隆	細見 茂	前田 豊	馬杉 栄一
松井 憲二	松岡 肇	松原 邦明	間部 俊明
三浦 和人	三浦 元	水谷 英夫	水谷 英二
満田 繁和	南 典男	宮里 邦雄	宮村 博
宮本 平一	盛岡 暉道	守川 幸男	森田 太三
守屋 克彦	安田 純治	安富 巖	山内 満
山口 健一	山下登司夫	山田 幸彦	山辺 和子
横田 力	吉川 滉	芳澤 弘明	吉本 貢
萬 實	脇山 淑子	渡辺 脩	

あぶくま法律(事)
浦和法律(事)
北大阪総合法律(事)
京都法律(事)
京橋共同法律(事)

一番町法律(事)
金沢合同法律(事)
きづがわ共同法律(事)
京都第一法律(事)
呉合同法律(事)

五反田法律(事)
滋賀第一法律(事)
信州しらかば法律(事)
仙台中央法律(事)
東京法律(事)
東京合同法律(事)
東京南部法律(事)
都民中央法律(事)
名古屋南部法律(事)
八王子合同法律(事)
広島法律(事)
増田法律(事)
武蔵野法律(事)
和歌山合同法律(事)

三多摩法律(事)
城北法律(事)
仙台中央法律(事)
千葉第一法律(事)
東京北法律(事)
東京中央法律(事)
東京本郷合同法律(事)
豊田法律(事)
奈良合同法律(事)
はままつ共同法律(事)
北海道合同法律(事)
三重合同法律(事)
代々木総合法律(事)

03冬期カンパ 追加

猪股 秀章 佐々木良博 古原 進 鷲野 忠雄
呉合同法律(事)

昨年の暮れに、「全国トンネルじん肺補償請求団」からの連帯カンパにひきつづぎ、去る6月15日、全国トンネルじん肺弁護団から「人権のために闘う連帯のメッセージ」とともに、高額の寄贈をうけました。下記のような連帯と感謝をこめて、御礼をお送りいたしました。

弁護団活動の成果に敬意と御寄贈の御礼

全国トンネルじん肺弁護団
団 長 小野寺利孝先生
事務局長 山下登司夫先生

日本民主法律家協会
理事長 鳥生 忠佑

益々のご活躍をお慶び申し上げます。

先の全国トンネルじん肺補償請求団の御援助とは別にこのたびは、1476名の患者・被害者救済をめざして全国で273名に及ぶ弁護士が参加し、統一した裁判闘争方針のもと7年余にわたって闘われた貴全国トンネルじん肺弁護団から改めて連帯のごあいさつをいただき、同時に多額の御寄付を頂戴しました。日本民主法律家協会は貴弁護団が獲得された大きな成果に深く敬意を表するとともに、理事長としても日民協を代表して厚く御礼を申し上げます。

いま、自衛隊の集団的自衛権行使を容認するに等しいイラク占領多国籍軍参加問題で憲法違反が頂点に達し、憲法改悪の動きが加速されていますが、日本民主法律家協会としても存立の意義が問われる憲法「改正」の阻止と憲法がめざす平和と人権、そして民主主義のいっそうの進展に向けて、全力を集中すべき状況にあります。また、司法改革も制度設計のうえではほとんどが出揃い、その総括と不十分な点のさらなる改革に向けて努力すべき重大な時期を迎えています。

日民協の財政状況は、残念ながら会員の高齢化に伴い会員の減少傾向に歯止めがかからず、慢性的な逼迫が解決できていませんが、今度の御援助により励ましを頂き、今後の活動に資するよう有意義に活用させていただく考えです。

今後のじん肺根絶裁判においても、いっそうの成果を上げられるよう祈念し、お礼の言葉とさせていただきます。

2004年6月25日



告知板

日民協第43回定時総会

日時 11月7日(日)午前10時~12時
会場 東京・四谷・プラザF9階 スズラン

定時総会は、上記日程にて開催いたします。
総会では、改憲策動阻止のために何をなすべきか、徹底討論したいと考えています。ぜひ、全国の会員諸氏のご出席をお待ちしています。
議案書は、10月の中旬に、「法民」10月号とともにお届けいたします。



第37回司法制度研究集会 検証・司法改革 - これで司法は良くなるのか

日時 11月7日(日)午後1時~6時 終了後・懇親会
会場 上記定時総会同一会場

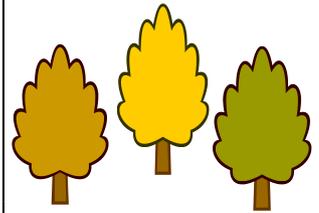
総論的基調報告 司法改革の背景(仮題)・広渡清吾教授(東京大学)

パネルディスカッション これで司法は良くなるのか

検証・「司法改革」 司法は良くなるのか
刑事訴訟 裁判員制度導入は刑事司法をどうかえるか
敗訴者負担 制度導入をさせないために

特別報告

裁判官制度 司法官僚制は変容を受けたか
司法容量 「司法改革」を裁判所の現場から
司法支援センター 弁護士自治は大丈夫か
終了後 市民会議解散式・懇親会 詳細は案内リーフを参照



憲法委員会例会 改憲策動の背景としての新自由主義批判(仮題)

後藤道夫教授(都留文科大学文学部)に聞く
聞き手 横田 力教授(都留文科大学文学部)

日時 10月30日(土)午後1時~5時
会場 日民協会議室

大月書店から刊行された講座「戦争と現代」編集代表の後藤道夫先生を囲んで、改憲策動をみすえ、「新自由主義」を徹底的に検証していただく、憲法委員会主催の例会です。後藤先生から縦横自在にお話を聞き出すのは、同僚でもある横田力先生です。

原稿募集「憲法改正反対・私の闘い2005」

「法と民主主義」では、今年の4月号から「シリーズ・改憲阻止」と題して、特集を組んでまいりました。大変好評です。各地で「法民」をヒントに集会の企画なども進んでいます。このシリーズは、来年の4月号まで続く予定です。そこで、新年号には、会員・読者からの「憲法改正反対・私の闘い2005」(仮題)として、皆様の決意を大募集しています。募集要項は下記のとおりです。

原稿執筆要項

字数 200字×4枚 800字以内
期日 12月10日(金)厳守
送付 メール(info@jdla.jp) FAX(03-5367-5431)にご送付下さい。
タイトル 20字以内でお願いします。サブタイトルも可。

